

研究テーマ

”いま”を生きる×“これから”を生きぬく力を育む保育 3年次

～子供たちとの園環境と暮らし～



滋賀大学教育学部附属幼稚園は同じ附属小学校・中学校と共に、「いまを生きる」という教育理念を掲げています。今後さらに不確実性が高く、将来の予測が困難な時代に向かっていく中で、私たちは幼稚園という学校教育の始まりの幼児期に何を育み、そして支える必要があるのでしょうか。遊びや生活といった環境から学ぶ「いま」を大切にしながら、「これから」の持続可能な社会の担い手を育む保育の実践と研究を行っています。

1年次 副題～多様なステキと向かい合う子供たち～ 研究成果

○SDGsにつながる幼稚園版アイコンの作成

SDGs17の目標を5つのキーワードで説明した「5つのP」を基に、保育事例から幼児期に大切にしたいことを抽出し、カテゴライズした幼稚園版アイコンを作成しました



「SDGs17の目標」



「5つのP」

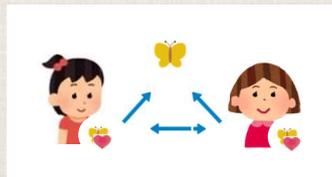


「幼稚園版アイコン」

○持続可能な社会につながる力の育成

持続可能な社会の担い手となるために幼児期にどのような資質や能力を育むべきか、そのためにはどのようなことが保育に求められるのか、幼児の“いま”の生活からSDGsにつながる力を見つめなおしました

＜実践事例「チョウさん死んじゃう」＞
4歳児が捕まえたチョウをめぐり、
友達と思いがぶつかる姿から見取りました



事例カードに
ジャンプ! →



○幼児期にふさわしい豊かな生活

持続可能な社会の担い手として、幼児期の生活を大切にしながら、SDGsに直接つながる視点で考え、日常の生活を見つめなおしました

＜実践事例「齧られたピーマン、どうする?」＞
5歳児が齧られたピーマンをどうするか考え、
その行く末を教師と共に考えました



事例カードに
ジャンプ! →



○「多様性」と「共生」の捉えの再確認と共有

キーワードである「多様性」と「共生」について、教師個々に少なからず差異があり、再定義しました

【互いのもっているものを受けとめ合い、互いに関わりあって共に主体となって生きる】

私たちが幼児を見取り、捉える中での「多様性」は、性や人種といった目に見えるものだけではなく、価値観や経験、受けてきた教育、また考え方など、その人の内面におけるもの、その成長過程や家庭の様子など、背景までも意識しながら捉えているものだと確認、共有しました

○教師の働きかけモデルの作成

教師の働きかけを言語化し、花をモデルに図式化しました。働きかけは花びらのように他の働きかけと重なり、中心にある多様な主体が共に主体となって生きる生活を豊かにしていくものだと考えました



- 【見守り】 その子らしさを尊重し、子供が何を感じているのか、何を考えているのか、その言動の経過を静観しながら心情を推し量ろうとするなどの働きかけ
- 【共感】 その子と同じように感じることで思いを理解しようとしたり、言動に沿って優しく温かい気持ちで声をかけたり、行動したりするなどの働きかけ
- 【教導】 子供の遊びや生活の中から生まれる興味・関心、遊びの目的や方法などに対し、子供の主体を保障しながら、教師の思いや考えを生かし一歩先を見据えた言葉をかけるなどの働きかけ
- 【受容】 その子のありのままの心情や言動を受け入れる言葉をかけたり、態度や行動で示したりするなどの働きかけ

【認める】 子供の姿をあるがままに受け入れて、その子の言動を受け止め、その子が期待する言葉をかけたり態度や行動を示したりするなどの働きかけ

【協同】 子供と横並びの関係で子供の世界を楽しみ、遊びや生活の仲間として目的を共有し、心を合わせて行動しようとするなどの働きかけ

【問いかけ】 遊びや生活の中で子供が興味関心をもったことや表現したことに対し、より想像を広げたり、思考や探究を深めたりすることにつながる言葉をかけるなどの働きかけ

【関わり・交流】 異なる年齢、発達、生活をしている人などとの関わりや交流などを通して自分たちの周りにおける多様さに気づき、他者や社会への興味関心につなげるなどの働きかけ

【憧れ・モデル】 教師自身が遊びや生活を楽しみ、知識や技量を生かすことによって、子供の意欲や、見方、捉え方、考え方の変容につなげるなどの働きかけ

【暮らしとの出会い】 季節の移り変わりや、文化、伝統の豊かさに気づき、興味関心をもったことを遊びや生活に取り入れたりすることにつながるなどの働きかけ

1年次からの事例は全て本園HP“研究”ページに掲載しています。 <https://www.edu.shiga-u.ac.jp/fk/>



既存の園環境と暮らしがもつよさと課題を見出し、子供たちと共に再構築することで、本園教育方針に示された幼児の姿を具現化すると共に、幼児教育の根幹である「環境」と、私たちの「暮らし」をSDGsの視点で見つめなおしました

<事例カードの見方>

- ▶事例タイトルの下に、幼児との暮らしの何を変えたのかを一目でわかるよう①「暮らしのポイント」で示しました
- ▶見つめなおした園環境がどのような意味をもつのか、②「安心・充実」(緑)「トライ」(青)「創造」(桃)から選び右上に示しました
- ▶左下では保育エピソードを考察し、本園教育方針に繋がる③幼児の姿を②と同色で示しました
- ▶幼稚園版アイコンの視点からエピソード全体をふりかえり、④本事例がSDGsにどう繋がるのか、教師自身もまた持続可能な社会の担い手として感じたこと、今後園や個人でサステナブルなものとして継続したいことなどを示しています



3年次を終えて



今年度の研究テーマ“いま”を生きる×“これから”を生きぬく力を育む保育～子供たちとの園環境と暮らし～では、本園最大の特長である自然豊かな園環境の可能性を最大限に引き出し、子供たちが安心して、意欲的、主体的に関わる園環境と暮らしを探究することによって、教育目標にあげる子供の姿を具体的に実現することを目指しました。

その過程では、園環境と暮らしとの関わりの中で得た「知識及び技能の基礎」、思いや願いの実現に向けて友達や教師と考え、伝えあう「思考力・判断力・表現力等の基礎」、自ら園環境に働きかけ、遊びや暮らしをよりよいものにしていく「学びに向かう力・人間性等」など、資質・能力の視点からも子供たちの変容をうかがうことができます。

3歳児では、教師が新しい園環境との出会いを丁寧に考え工夫していくことにより、幼児ならではの素朴な遊びが展開され一人一人が安心して自分らしさを発揮していました。その中で、園環境への気づきを教師と共に暮らしに取り入れる姿が見られました。

4歳児では、教師と共に虫や草花との暮らしを楽しむ中で、新しい発想で園環境に変化を加えたり、捉え方を変えたりしてきました。その中で、身近な園環境に愛着をもって関わろうとする姿が見られました。

5歳児では、子供たち自身も関わって造成したビオトープを通して様々な自然や命との出会いを重ね、遊びや暮らしに取り入れてきました。その中で、自分なりに言葉などで表しながら考えを深めたり、関わりを変容させたりするなど園環境と幼児の関係性が紡がれていく姿が見られました。

さて、これらに向けて思いをはせてみますと、希薄な人間関係や、あふれるデジタルコンテンツなど子供たちを取り巻く社会の変化に伴い、教育目標にある子供像についても再検討が必要であると感じられます。例えば「健康でたくましい子ども」のイメージは、従来、存分に体を動かして遊ぶ子供の姿であったと考えられますが、現在では心の強さやレジリエンスへの関心が高まっています。このような変化に対応して、あらためて教育目標や子供像について捉え方、考え方を共有していく必要があります。

土や水、草花や木、小動物など、自然にある命に触れることができる園環境と暮らしの中で、子供たちは「地球にあるすべてと共に生きる」という感性を無意識のうちに育てているように感じます。子供たちが“いま”を存分に生きる（遊ぶ・暮らす）中で、「園環境」と「暮らし」を往還させることによって経験や気づきを深め、学びとして未来へ生かしていく姿が期待されます。SDGsの視点を通して見つめてきた研究と実践が、子供たち自身が“これから”の園環境と暮らしを創造していく力の基盤となっていくことを願っています。

滋賀大学教育学部附属幼稚園 副園長 大矢 明

